

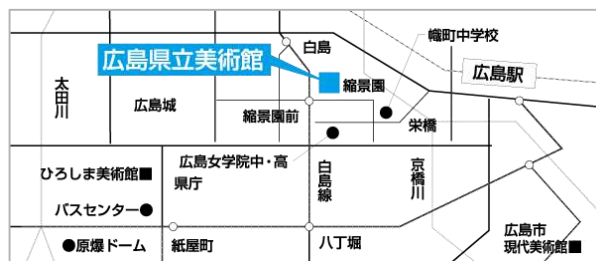


会期 2019年
 4月13日(土)～5月26日(日)
 会期中無休

前売券発売中

開館時間 9:00～17:00
 ※金曜日は19:00まで、
 入場は閉館の30分前まで
 ※4月13日(土)は10:00開場

料金 一般 1,200円 (1,000円)
 高・大学生 1,000円 (800円)
 小・中学生 600円 (400円)



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぷる～ぷ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

 **広島県立美術館**
 Hiroshima Prefectural Art Museum

【開会式情報】

次の通り、「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

日時：平成31年4月13日(土) 午前9時30分～

場所：広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

内容：主催者紹介・挨拶、来賓紹介、テープカット、内覧

【開催趣旨】

歌川国芳は旺盛な好奇心と柔軟な発想、豊かな表現力を武器に幕末浮世絵を活性化させた浮世絵師です。本展では国芳の武者絵を中心としながら、月岡芳年ら弟子たちの作品にもスポットをあて、150点の作品と資料によって、彼らが新しい画題と表現に挑み続けた姿を紹介しようとするものです。

なお出品作品は名古屋市博物館の所蔵する国文学者尾崎久弥氏と医学者高木繁氏によるコレクションを中心に構成します。いずれも自分の「好き」をつらぬいて収集された魅力的なコレクションです。彼らの眼を通して、国芳を領袖とする「芳ファミリー」の活躍をご覧いただければ幸いです。

【展覧会の構成】

第一章 ヒーローに挑む

歌川国芳の出世作であり、その後も得意としたのが歴史上や物語に登場するヒーローの勇ましい姿を描いた「武者絵」です。国芳は武者絵を描く秘訣を「突然人を投げ出して、投げられた人の動きを観察したり、あるいは組み伏せたときにそれを跳ね返そうとする様子などを覚えておいて、その息込を描くように。」(『暁斎画談』)と教えています。彼の武者絵の魅力は、わくわくする躍動感にあります。その迫力の秘密は、こうした日頃の観察によって培われた「造形力の高さ」にあるのでしょう。そしてその精神は着実に弟子へと受け継がれています。月岡芳年にも同じように、磔の絵を描くために弟子を縛り付けて写生したというエピソードが残っています(『芳年伝備考』)。ここでは国芳が逸話やヒーローたちをどのように表現し、そして弟子たちがいかに受け継いだかをご覧ください。



歌川国芳《信州川中髯百勇将戦之内 真田喜兵衛昌幸》
天保14～弘化3年(1843～46) 高木繁コレクション

第二章 怪奇に挑む

ヒーローの勇ましさ強調するためには、彼らが対峙する怪奇をいかに恐ろしく表すかということが重要なポイントになります。また状況が異常であればあるほど画中のドラマ性は高まるものです。国芳は血がほとばしる残虐な場面を描きましたが、弟子もまたその路線を受け継ぎました。とはいえ、そうした残虐性は、彼ら個人の嗜好からくるものではありません。幕末から明治にかけては読み物、歌舞伎や講談、落語、そして見世物といった文芸全般において、幽霊や妖怪が跋扈する話や悲劇の人間ドラマが好まれたのです。「怖いもの見たさ」という名の好奇心、そしてもっと、よりもっと刺激の強いものを求める人間の性は今も変わりません。国芳たちはそうした時代の要請に的確に応えたとと言えるでしょう。この章では怪奇を描いた作品や「血みどろ絵」と呼ばれる作品を紹介します。



歌川国芳《相馬の古内裏》
弘化2～3年(1845～46)頃 高木繁コレクション

press release

第三章 人物に挑む

浮世絵の歴史を通じてその中心には常に美人画、役者絵がありました。要するに人物を描くということです。国芳、芳年の美人画では、春夏秋冬、十二月など、折々の女性の姿を描く作品もいいのですが、「～したい」という類の作品も見逃せません。理想的な女性の姿を描くのが目的ではなく、女性の心に踏み込んだ表現が見どころです。思いもよらぬ「～したい」もあって楽しいですし、故事の見立てなどが重ねられれば楽しみ倍増です。身近にいる普通の女性に描かれていることにも好感が持てます。芳年の美人画、特に後半期の作品では、現実味がありすぎてドキッとするものにも出会うことでしょう。役者絵では、格好いいその姿を提供するという本来の役割を超え、役者の名演技や実力を伝えてくれる迫真的な作品が両者にあります。国芳、芳年の作品の面白さは武者絵や歴史画だけではありません。二人の名人には、美人画、役者絵にも、思いのほか楽しめるものが沢山あるのです。



月岡芳年《見立多以尽 とりけしたい》
明治11年(1878) 尾崎久弥コレクション

第四章 話題に挑む

ここでは当時の世相をネタにした戯画や、話題となった見世物に取材したものなど、ニュースソースとしての作品を紹介します。国芳の戯画(滑稽な絵)はバリエーションの豊富さと、アイデアの奇抜さにおいて他の追随を許しません。第一章の武者絵と並んで彼が浮世絵界に残した新機軸とっていいでしょう。そうした、ただユーモラスなだけにみえる国芳の戯画のなかには、幕政を風刺しているとしてさまざまな噂が飛び交ったものもあります。もちろん事情を知らなくとも楽しめるのが国芳作品のすごさなのですが、当時の状況を背後に眺めてみると、また違った側面が見えてきます。江戸の人々が国芳の戯画に求めたものとは？国芳作品の「面白い」には「裏」がある。国芳らが時代をどう捉え、いかに商品としたのか、その挑戦をご覧いただけることでしょう。



月岡芳年《英名二十八衆句 団七九郎兵衛》
慶応2年(1866) 尾崎久弥コレクション

終章 芳ファミリー

一時、国芳に学んだ河鍋暁斎^{かわなべきょうさい}が国芳画塾の様子を描いた図がのこっています(『暁斎画談』)。国芳先生の前に座るのが七歳の暁斎ですが、猫が走り回り、何とも自由な雰囲気^{きんぎ}に包まれ、度量の大きい国芳の人間像^{にんげんざう}がうかがえるというものです。親分肌だったといわれる国芳には多くの絵師が弟子入りし、その多くが画号に「芳」の字をつけています。なかでも「最後の浮世絵師」といわれた芳年はとりわけ印象的で、国芳の刷新した浮世絵に近代の装いをまとわせながら、すべてのジャンルでさらに進化させています。また「錦絵新聞」で印象深い芳幾^{よしよし}、戯画の芳藤^{よしと}、三枚続のパノラマ武者絵で秀作を残す芳艶^{よしあや}と、それぞれに個性を発揮しています。終章では国芳作品のDNAを持つ絵師たちを「芳」ファミリーとしてまとめ、人々に情報と楽しみを提供し続けた浮世絵最後の光芒^{ひかり}をご覧いただきたいと思います。



歌川国芳《浮世よし久志》
弘化3～嘉永元年(1846～48) 高木繁コレクション

press release

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

【関連イベント】

講演会「国芳と芳年の『快感』」（共催：広島県立美術館友の会）

日時：4月20日（土）13:30～15:00 [開場13:00]

講師：神谷 浩（名古屋市博物館 副館長）

場所：地階講堂（先着200名）

※事前申込不要、聴講無料

ワークショップ「紙で版画を作ってみよう!!」

日時：4月29日（月・祝）、5月3日（金・祝）各回とも13:30～15:30（内容は同じ）

講師：角田 新（当館担当学芸員）

会場：地階講堂（定員15名・小学生以上）

※要事前申込、参加費無料

Tel.082-221-6246（当館）4月18日（木）締切

学芸員によるギャラリートーク

日時：4月19日（金）、26日（金）、5月10日（金）、24日（金）、

各日11:00～、18:00～

※入館券をお求めの上、会場入口付近にお集まりください。

広テレ落語会「会談厳選」

日広島テレビの現役アナウンサーの落語会！

日程や出演者の詳細は、当館ホームページやSNS、

広島テレビの番組内でお伝えします。乞うご期待！

ロビーコンサート

「挑む音色、三味線とピアノで奏でる浮世絵の世界」

日時：4月28日（日）12:00～

演奏者：川東陽華（長唄三味線）、山下雅靖（ピアノ）

場所：1階ロビー

※事前申込不要、鑑賞無料

press release

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

【県美×現美×ひろ美 相互割引】

「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」の会期中、3館で相互割引を実施！
下記いずれかの特別展チケット(半券可)を受付にご提示いただくと、
本展当日料金より100円割引。詳しくは各館にお問い合わせください。

※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

広島市現代美術館(南区比治山公園1-1/TEL 082-264-1121)

開館30周年記念特別展 美術館の七燈 2019年3月9日(土)~5月26日(日)

ひろしま美術館(中区基町3-2[中央公園内]/TEL 082-223-2530)

みんなのレオ・レオーニ展 2019年4月20日(土)~6月2日(日)

【開催概要】

メインタイトル：挑む浮世絵 国芳から芳年へ

英語名：UKIYOE that Challenges Kuniyoshi, Yoshitoshi ...and More !

料金：一般 1,200(1,000)円 高・大学生1,000(800)円 高・大学生600(400)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

※学生券をお求め・ご入場の際は学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と
介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所：広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード：072-007)、ローソンチケット
(Lコード：62870)、チケットぴあ(Pコード：769-514)、イープラス、広島市・
呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店などで販売しています。

開催クレジット

主催：広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ

後援：中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛：野崎印刷紙業、広島県信用組合

企画協力：名古屋市博物館

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：n-issikis4676@pref.hiroshima.lg.jp

担当：学芸課 角田 新

広報担当：総務課 一色 直香